



小野寺敏雄さん(58) 片無去

●北海道福祉のまちづくり賞(活動部門)の受賞団体
NPO法人『のんき村』代表

**個人の性格に合わせた役割分担をし
一つの舞台を作り上げていきたい**

北 北海道福祉のまちづくりコンクールは、福祉的配慮に優れた優良事例を広く道民や関係事業者に紹介し、普及啓発を図ることを目的に実施され、今年で11回目を迎えました。今年度は活動部門でNPO法人ののんき村のほか道内で6件が受賞しました。障がい者が地域で生活していくために必要な居住場所の確保、自立した生活を支える収入の確保、地域の理解と協力を得るための支援などが評価されたNPO法人ののんき村。代表の小野寺さんは「受賞の知らせを聞いたときはびっくりしましたが、取り組んでいる方向性や将来性が見込まれ、自分たちのやってきたことが認められて受賞したことは、この施設を利用している利用者本人をはじめ、家族にとっても大きな激励となりました」と話します。

NPO法人ののんき村は平成17年3月に設立され、現在はアイスクリームやクッキーの製造・販売、農作業などを行う就労支援と、ケアホーム・グループホーム『男衆の宿』を運営

しています。「就労支援では、仕事だけではなくレクリエーション活動も行いながらメリハリのある日々を過ごしています。町内にはあみか21や情報館などの施設が充実しているので活用しています」と話します。

片無去の作業場に併設する喫茶店『花季香』で販売されているアイスクリーム『掘りたてアイス炭譚』は2007年度の日本農業新聞の一村逸品大賞を受賞しました。「この石炭アイスは、いろいろな人からアドバイスをもらいながら作った思い出が強い商品です。3層に重なっているので作るには時間がかかりますが、みんなで一生懸命作っています。今では石炭アイスを目当てに喫茶店に来るお客さんもいるほどです」と小野寺さん。

「この作業場では現在7人が働いています。接客の得意な人、農作業が得意な人など、それぞれの個性を活かした役割分担をし、自然に恵まれた広大なロケーションを活かし、四季を通じた一つの舞台を作り上げていきたいと考えています。喫茶店から見える景色を花でいっぱいにするのが今の私の夢です。アイスクリームや雄大な景色を求めて自然にお客さんが集まり、安定的な経営をすること、そして地域に対して貢献していくことが目標です」と小野寺さんは話します。